

眼形成・眼窩・涙道外科を受診している患者さん及びそのご家族へ

当院では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会で倫理的観点及び科学的観点から中立的かつ公正に審査され、研究機関の長に認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。この研究へのご質問や研究に係る相談だけでなく、個人情報の開示を希望される場合、研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧を希望される場合は、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。研究計画書等は、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で閲覧が可能です。

記

研究課題名	片側眼瞼下垂に対する眼瞼挙筋腱膜前転術における皮膚切開線の長さとの術後成績の関係
研究機関の長(試料・情報の管理責任者)	愛知医科大学病院 病院長 道勇学
研究責任者	眼形成・眼窩・涙道外科 (職名) 教授(特任)(氏名) 高橋靖弘
研究の対象となる方	2022年1月1日から2022年12月31日までに当科で片側だけ眼瞼下垂手術を受けた患者さん
研究期間	研究実施承認日 ~ 2024年12月31日
研究目的及び利用方法	<p>[研究目的]</p> <p>眼瞼下垂手術において、手術中に出血したり腫れたりすると、手術中にどれだけ上眼瞼が上がったか、術後腫れや出血が引いた後に上眼瞼の位置がどのようなになるかを予測するのが難しくなり、これが手術成績に影響します。手術時の傷が小さいほど出血や腫れを予防することができ、手術中により正確に上眼瞼の上がり具合を確認できると想定され、これが手術成績向上につながる可能性があります。本研究では、下記の診療録から得たデータを基に、片側だけの眼瞼下垂に対する眼瞼挙筋腱膜前転術という術式において、6mm だけ皮膚を切開した症例と 12mm 皮膚を切開した症例に術後成績に差があるかどうかを調べることを目的としています。</p> <p>[利用方法]</p> <p>診療情報の収集目的で、カルテを利用します。</p> <p>[外部への試料・情報の提供]</p> <p>非該当</p> <p>[外部への提供開始日]</p> <p>非該当</p>
研究に用いる試料・情報の取得方法及び項目	<p>試料：非該当</p> <p>情報：診療録(カルテ)から、年齢、性別、術側、上眼瞼の位置、挙筋能、手術内容に関する情報を収集</p>
提供する試料・情報を用いる学外の研究責任者	非該当
試料・情報を利用す	非該当

る学外の者	
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2024年7月31日までに電話により下記問い合わせ先まで申し出てください。未成年の患者さんは代諾者（親権者など）の方が問い合わせをお願いいたします。
外国への試料・情報の提供	非該当
問い合わせ先	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科 担当者：(職名) 教授 (特任) (氏名) 高橋靖弘 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311 (内線 12314)